



パネルディスカッション
住民・自治体・交通事業者の協働でつくりあげる
バス交通のこれからを考える

流通経済大学 板谷 和也

バス交通はなぜ必要か？

- 路線バスによる輸送は自動車の1割以下
- 茨城県のバス輸送はピークの4割以下
- 路線バスはここ20年以上、収支率が100を超えたことがない
 - 鉄道か自家用車に全て置き換えてしまってもよいのではないか？
- バスが必要な人はいったい誰なのか
 - 免許非保有者：中学生・高校生、高齢者（特に女性）
 - 通勤・通学・通院・買い物の足

バスはこのままでよいのか

- 現状維持か、改革か
 - 問題点はいくつもある(運行本数の減少、待合空間の貧弱さ、乗り継ぎ利便性の不足 など)
 - 問題点を改善すれば、利用は増えるのか
 - 利用が増えるような改革をするには、どうすればよいか
 - 乗務員の高齢化、車両の更新、情報提供方法の刷新といった課題にどう対応するか
- バス利用者は行きたいところに行けているか
 - 主な利用者層とその目的地
- 路線の性格の違い
 - 幹線、支線、交通空白地対応
 - 鉄道や自家用車、自転車等との連携は可能か

日立では何が課題か

- 日立市における先進的な取り組み
 - パートナーシップ事業
 - ひたちBRT整備事業
- きょうの議論
 - 日立市のバス交通における課題抽出
 - 住民と自治体と事業者の協働でつくりあげるバス交通のすがた
 - バス事業者のこれからのあり方
 - 愛される路線バスに必要な要素



バスのあるまち、ひとに、地球に、優しいまち。
日産自動車グループ

ばすせん

増えています
バスの乗り方
知らない子



